

おわりに

今では、山歩きレベルに極論すれば書くべき技術はなく、装備はどれをとっても大した差がない。ところが、山岳談合体質はメーカー、山小屋の神話を壊しかねない、多少の批判はおろか、道具に関して原理、原則的な説明解説さえ許さない。だから、さまざまな神話と妄想が流布し、混乱している。しかし、長期山行を安全確実にを行うには、基本的原理と科学的知識だけはきちんと押さえておかないと、思いもよらないトラブルに遭遇しても乗り越えられない。

99年に最初の版を出した時は、このような片手間仕事を越えるものがすぐ発行されると信じていた。そして、長期縦走に使っている装備、食料等、手の内を全て書いて、一抹の寂しさと共にホッとしたものだ。最近は各出版社宛にもこの本を送っているが、今でもとんでもない記事や本が出て、当該分野のレベルの低さに驚く。そこで、最後の改訂をする気になった。

内容は、新しい情報が加えられより正確になっているが、追加と修正を重ね全体の流れはざこちなく、文体、表現の揺れは手が付けられない。能力に余るほど盛りだくさんの内容は全体像を掴んで見直すのも困難なため、項目毎の手の入れ方は大幅に異なり、全体としてのバランスは醜悪極まるものになっていること平にお許し願いたい。

今回もまた、意味を曖昧にしたまま使われている言葉の一つ一つを、出来る限り明確に定義し使用するよう心を砕くと共に、可能な限り現実との係わりの中で論理的に分析、説明しようと試みた。これ程、強迫神経的に考え対策を練っていても、実際の山行では新たな問題が次々起こり、それを一つ一つ解決してきたからこそ、これまで長期縦走を無事続けることが出来たと思う。だからこそ、これから長期縦走を試みようとする人には知っておいた方がよい実用的知識集の筈だ。自分には興味のないモノフェチ偏執的データと思われる方もいるが、長期縦走の「生活体験」に基づく合理的装備選びと具体的生活方法、そして材料に関する基礎的知識は、誰にとっても基本方程式かデータとして利用できるはずだ。

これは長期縦走の基本的問題だけを論じたものだから、「大全」、「全書」には当たらないが、いささかの矜持を込めて「原論」とした。「学」とするには厳密性が不足する。

2007年5月22日

山姥とその仲間